

小中高生力強く書き初め

大曲 大曲高書道部も腕前披露



手本を見ながら真剣な表情で書き上げる子どもたち

「大仙市新春子ども書初め大会」が7日、市大曲体育館で行われた。市内の小・中学校生計15人が、真剣な表情で筆を振った。

参加者は「花さく里」「春待つ心」「希望の年」といった言葉を課題に、お手本を見ながら力強く筆を進めた。書き上げた中から1枚を選んで提出した。

伊藤光希さん（南外小3年）は「はるの光」と書いた。「近光の画一画がつながるイメージで書いたのが良かった。難しい課題もあるけど、先生に教わりながら書くのが楽しい。今年は大会に出てみたい」と話した。

提出作品の審査結果は市のホームページに掲載。10、17日には大曲交流センターに展示する。午前9時～午後5時（10日は午後1時から、17日は正午まで）。

大会に先立ち、大曲高校書道部が書道パフォーマンスを披露した。「心を綴る」をテーマに「人を傷つけてしまうことは誰にでもあるが、手を取り合ってくれる友は必ずいる」という思いが込められた内容で、仙北市の劇団わらび



大曲高校書道部のパフォーマンスで完成した作品

座の協力を得て構想を練った作品。音楽に合わせたナレーションや、息の合った振り付けを織り交ぜながら作品を完成させると、大きな拍手が湧き起こった。

同部は、12日に千葉市で開催される全国大会を控えている。大久保和心部長（2年）は「書くところも魅せるのが書道パフォーマンスの特徴。もっと練習を積んで臨みたい」と意気込んだ。

（畠屋幸恵）